



京町家「花洛庵」の玄関口

Where culture meets nature 展の開催 まちかどの歴史的建造物を『博物館』に

日本文化を育んだ自然をテーマとした展示会“where culture meets nature”展が、2016～2019年にかけ、全国12の博物館との共同で実施された。歴史的建造物を展示の場と捉え、文化の形成を自然史標本によって演出する実験的な展示に挑戦。これは、どこの町にもある町家、酒蔵、寺院といった地域資源を活用して、まちかど博物館として活用することの効果と可能性、方法論をさぐったものだ。自然史博物館が関わることで、まちかどの歴史的建造物がときどき『博物館』になれば、地域の活性化や交流促進にも繋がるだろう。

この事業は、文部科学省生涯学習局および文化庁の委託事業として、毎年場所とテーマを替えて開催してきました。全国の博物館がネットワークで企画し、博物館ではない施設を使った約3週間の短い移動展示会です。これまでにない新しいタイプの展示なので、多くの人の知恵と技術を集結してリスク管理すると同時に、新たな標本活用スタイルの経験と技術を共有することも目的としています。テーマの設定方法、標本の見せ方と保存管理の課題から、文化的背景へ

の配慮事項、歴史的建造物の扱い方など、未知の課題への挑戦でした。これらの知見と実態は、2019年に開催された国際博物館会議 (ICOM 京都大会) にて発表したほか、海外博物館からの来訪者との交流を進めました。

これまで開催した4回の展示会は、いずれも盛況かつ好評で数多くの来場者とメディアでの掲載のほか、主要な博物館や広告代理店からの視察依頼、SNS上でも数多くの情報が飛び交い、今でも問い合わせがあ

ります。展示の様子はSNSをはじめネット上にたくさん掲載されています。検索エンジンで“where culture meets nature”と入力すれば、博物館スタッフが撮影した写真よりも綺麗でポイントを絞った写真がたくさん掲載されています。あくまでも参考ですが、タイトルの英文をgoogleで期間と日本語限定で検索すると、約18.4万件ヒットし、きれいな画像が次々と表示されます。“兵庫県立人と自然の博物館”を同じ条件で検索すると約6万件のヒット、国際博物館会議が約30万件のヒットであることから、この数字が十分に大きいことが分かります。学会等においても、自然史博物館は人文系に負けず劣らず文化の魅力を発信できるとの意見があったほか、博物館ではないところを博物館にする試みは、地方創生や文化観光の視点から重要となるなど注目していただきました。

博物館が有する唯一無二の役割は、標本を半永久的に保存し、活用し続けることにあります。博物館に多数の標本が集まり、多種多様な資料や標本を使った研究や展示を行う事で、その価値が広く認識され、博物館の役割が理解されます。特に標本を活用することで、地域資源の再発見や活性化、あるいは新たな価値を創出することは、博物館が有する標本を未来へと継承するための重大な動機となります。活用の多様性を高め、これまでにないユニークな活用法を開発することは、博物館らしい地域づくりの方法論となります。自然史標本と文化との関わりを、「場」、「モノ」、「コト」の複合による展示手法(いわゆるキュレーション)は、幅広い層に対して、自然への理解や関心を高める方法として有効であることが、実験展示を通じて実証できたと考えています。

これまで開催された展覧会

開催年 / 来場者数	会場	テーマと展示内容
2016年 約1000人	京都市重要文化財 京町家「花洛庵」 (京都市中京区)	「日本文化を育んだ自然」 庭を借景として、植物標本やほ乳類標本を並べるほか、「花洛庵」で保管されていた鳥毛覆の陣羽織の素材探求や自然史の観点から展示を作成
2017年 約5000人	県重要文化財 「旧岡田家酒蔵・石橋家」 (兵庫県伊丹市)	「日本酒の自然誌」 日本酒ラベルに登場する動植物を一堂に並べ、ナガスクジラなどの大型のものから、絶滅危惧種の標本、名水が生まれる仕組みを説明した体験展示、酒米やイネ科植物の系統を一堂に並べて紹介
2018年 約2000人	「龍岸寺」 (京都市下京区)	「仏教と自然」 ご先祖という観点から生物の進化を標本で演出するほか、仏教にまつわる植物、涅槃図に登場する動物の紹介、さらに会場となった龍岸寺は、江戸の天文学者渋川春海の住まいであり、当時の天球儀などを交えて紹介
2019年 約2000人	京都市重要文化財 京町家「花洛庵」 (京都市中京区)	「Japan Color」 植物染や日本絵具、鮮やかな日本産蝶類の色彩、色彩を残した標本製作技法の紹介などの展示



1. コンプのプラスティネーション 2. 酒樽の利用 3. 酒樽の利用と人止め 4. 照明の設置 5. 植物染織 6. 組手仕 7. 双眼鏡を使う